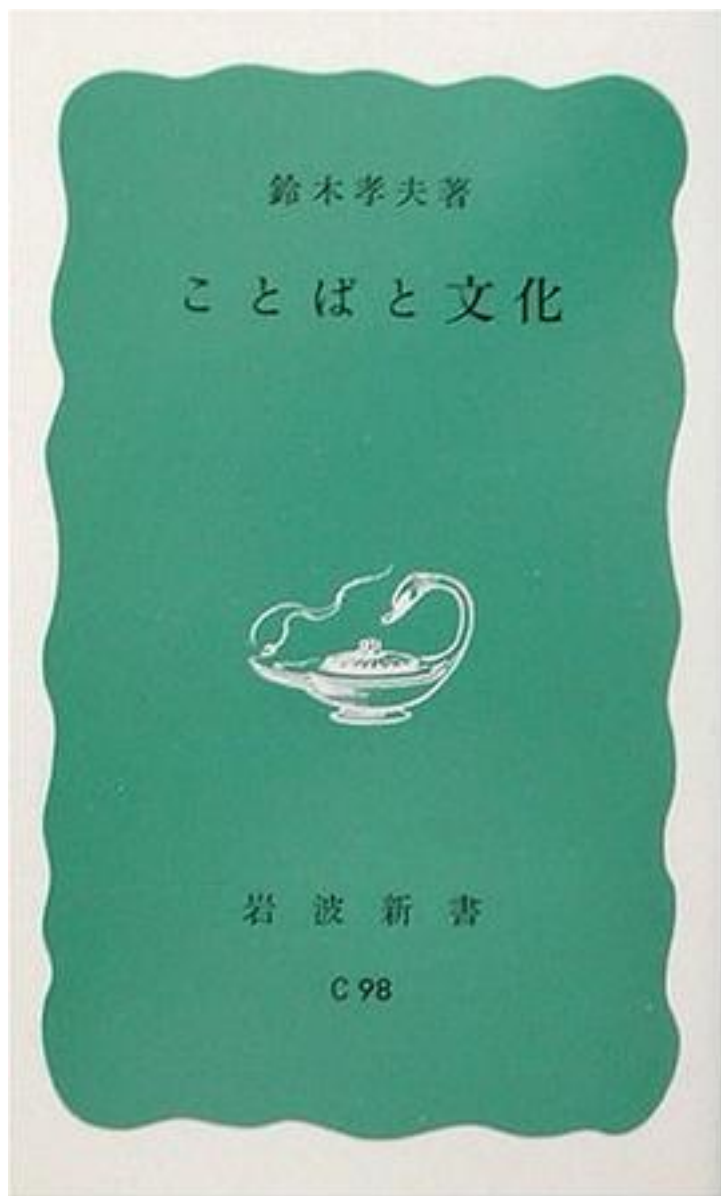


ことばと文化 岩波新書



[ことばと文化 岩波新書_下载链接1](#)

著者:鈴木孝夫

出版者:岩波文庫

出版时间:1973-5

装帧:

isbn:9784004120988

文化が違えばことばも異なり、その用法にも微妙な差がある。人称代名詞や親族名称の用例を外国語の場合と比較することにより、日本語と日本文化のユニークさを浮き彫りにし、ことばが文化と社会の構造によって規制されることを具体的に立証して、ことばのもつ諸性質を興味深くえぐり出す。ことばの問題に興味をもつ人のための入門書。

作者介绍:

1926年東京に生まれる。1947年慶応義塾大学医学部予科卒業、1950年同大学文学部卒業。専攻は言語社会学。現在、慶応義塾大学名誉教授。

目录: 1 ことばの構造、文化の構造
2 ものとかことば
3 かくれた規準
4 ことばの意味、ことばの定義
5 事実に意味を与える価値について
6 人を表わすことば
・ ・ ・ ・ ・ (收起)

[ことばと文化 岩波新書 下载链接1](#)

标签

鈴木孝夫

语言学

日本語

岩波新書

大学院

大三下

ling

TL

评论

很接地气的小书，最后一章论人称代词非常长姿势。然后作者一定是个阿婆粉……

语言社会学的名著 后半部讨论日语中人称的问题有很多启发内容
不仅仅停留在语言问题上 日语中一般 以对方为中心 站在对方的视角使用人称
达到与对方的一体化（融合？） 就隐约看到了土居讲到的“甘えの構造”

这本书真的太有趣了

[ことばと文化 岩波新書_ 下载链接1](#)

书评

[ことばと文化 岩波新書_ 下载链接1](#)